

- 問1 5世紀後半のヤマト王権の勢力範囲を知る手がかりとして、熊本県の江田船山古墳から出土した銀象嵌の銘文を持つ鉄刀があります。この鉄刀に記されている、当時の王権の中心人物を指す名称として正しいものはどれですか。 (2022年 福島県公立入試 類似)
1. 志賀島の金印の主 2. ワカタケル大王 3. 聖徳太子 4. 卑弥呼
- 問2 3世紀ごろの中国大陸では、複数の勢力が対立して覇権を争っていました。この時期、日本の邪馬台国の女王である卑弥呼が使いを送り、「親魏倭王」の称号を授かったとされる国が含まれる時代の名称を選びなさい。 (2016年 和歌山県公立入試 類似)
1. 三国時代 2. 戦国時代 3. 五代十国時代 4. 南北朝時代
- 問3 古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。 (2023年 岡山県公立入試 類似)
1. 遣唐使 2. 南蛮人 3. 渡来人 4. 防人
- 問4 大阪府堺市に位置する大山古墳（仁徳天皇陵）について、その特徴を地形図から読み取った場合の説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 円形の墳丘が等高線によって示され、周囲には濠がなく、標高の高い山地の中に独立して築造されている。 2. 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。 3. 正方形の墳丘が三重の石垣によって囲まれ、その中心部に巨大な石室が露出している。 4. 長方形の墳丘が二重の濠に囲まれ、周囲に倍塚と呼ばれる小規模な円墳が直線状に並んでいる。
- 問5 4世紀から6世紀ごろにかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に欠けていた高度な技術や文化を伝えた人々を何と呼びますか。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
1. 遣隋使 2. 御家人 3. 防人 4. 渡来人
- 問6 4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。 (2019年 富山県公立入試 類似)
1. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため 2. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため 3. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため 4. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため
- 問7 大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。 (2023年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み 2. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度 3. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術 4. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
- 問8 日本最大級の規模を誇る前方後円墳である大仙古墳（大山古墳）が位置する場所として正しいものはどれですか。日本全国をいくつかの地域に分けた際、現在の大阪府堺市が含まれる地方の名称を選択しなさい。 (2024年 茨城県公立入試 類似)
1. 九州地方 2. 関東地方 3. 近畿地方 4. 東北地方
- 問9 ヤマト王権が巨大な前方後円墳を築き、その周囲に武装した人物の像などの埴輪を並べたり、鉄剣に首長の称号を刻んだりした歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 貴族による摂政・関白の政治を安定させるための儀式として行ったため 2. 仏教を全国に広めるために、寺院の代わりとして巨大な墓を建立したため 3. 大陸から伝わった稲作の技術を記念し、収穫を祝う祭祀の場とするため 4. 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため
- 問10 古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 大分県公立入試 類似)
1. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。 2. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。 3. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。 4. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。
- 問11 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 方墳 2. 八角墳 3. 前方後円墳 4. 円墳
- 問12 古墳時代の東アジアにおける対外関係と文化の流入について、その背景と内容を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 群馬県公立入試 類似)
1. この時期の日本は大陸から完全に孤立しており、大陸の文化が流入し始めたのは平安時代以降である。 2. 中国大陸の南朝とのみ交流し、朝鮮半島の高句麗や新羅とは敵対関係にあったため、半島由来の文物は存在しない。 3. 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。 4. 大陸との交流は小規模な民間貿易に限られており、国家間の正式な外交や技術導入は行われていなかった。
- 問13 日本の関東地方、現在の埼玉県に位置する前方後円墳からは、115文字の銘文が刻まれた金錯銘鉄剣（きんさくめいてっけん）が出土しています。この鉄剣に記された「ワカタケル大王」という名は、当時のヤマト政権の首長を指すとされています。この鉄剣が出土した古墳の名称として正しいものを選んでください。 (2016年 三重県公立入試 類似)
1. 江田船山古墳 2. 箸墓古墳 3. 大仙陵古墳 4. 稲荷山古墳

答え合わせ・解説

問1	答え 2 ワカタケル大王	江田船山古墳から出土した鉄刀に刻まれた「ワカタケル大王」は、中国の歴史書に記された「倭王武」や、日本の『記紀』に登場する雄略天皇にあたると考えられています。この名称が刻まれた遺物が、九州（江田船山古墳）と関東（稲荷山古墳）の両方から発見されたことは、広域な支配体制の確立を裏付ける歴史的な発見となりました。
問2	答え 1 三国時代	3世紀の中国大陸では、魏、呉、蜀の三つの国が並び立ち、互いに勢力を争っていました。この時期を三国時代と呼び、日本の邪馬台国の女王・卑弥呼は、その中の一つである「魏」に使いを送り、金印や銅鏡を授かることで自らの権威を高めようしました。
問3	答え 3 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問4	答え 2 円形の後円部と方形の前方部を組み合わせた鍵穴のような形状の墳丘が、三重の濠に囲まれて配置されている。	古墳時代中期を代表する大山古墳（仁徳天皇陵）は、前方後円墳という日本独自の形式を持つ巨大な古墳です。地形図上では等高線によってその独特な「鍵穴型」が描かれ、さらに墳丘を保護するように三重の濠が巡らされていることが確認できます。また、周囲には「倍塚（ばいづか）」と呼ばれる、被葬者の親族や家臣を葬ったとされる小規模な古墳が点在しているのも、この地域の歴史的景観の大きな特徴です。
問5	答え 4 渡来人	朝鮮半島での戦乱を逃れるため、あるいは大和政権による招きに応じて日本列島にやってきた人々です。彼らは養蚕、機織り、金属加工、土木技術のほか、漢字や儒教、仏教といった学問や宗教も伝え、古代日本の国家形成に大きな影響を与えました。
問6	答え 3 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問7	答え 3 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。
問8	答え 3 近畿地方	5世紀頃、現在の大阪府や奈良県などを含む近畿地方を中心に、巨大な前方後円墳が数多く造られました。大仙古墳は、当時の大和政権（ヤマト王権）の首長である大王の権力を象徴するものであり、現在の大阪府堺市に位置しています。
問9	答え 4 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため	古墳の巨大化や、武人などをかたどった埴輪の設置、そして「大王」という称号を刻んだ鉄剣を配ることは、ヤマト王権の優れた技術力や軍事的な権威を内外に示す目的がありました。これにより、各地の有力な豪族を自らの支配下に組み込み、連合政権としての基盤を固めていきました。
問10	答え 4 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の臺の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問11	答え 3 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問12	答え 3 倭の王権は朝鮮半島の諸国や中国の王朝と交流し、馬具などの実用的な技術や高度な工芸品を取り入れていた。	古墳時代の日本（倭）は、朝鮮半島の高句麗・百済・新羅・加耶、そして中国の諸王朝と政治的・経済的な結びつきを強めていました。この交流を通じて、大陸の進んだ技術や文化が日本列島へもたらされました。具体的には、乗馬の風習とともに伝えられた「馬具」や、高度な鑄造技術による「銅製水瓶」などが各地の有力者の古墳に副葬されており、これらは当時の対外関係の重要性を物語る重要な資料となっています。
問13	答え 4 稲荷山古墳	埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇（大泊瀬幼武尊）を指すとされる「ワカタケル大王」の銘文が刻まれていました。これは、5世紀後半のヤマト政権の支配力が関東地方にまで及んでいたことを示す決定的な証拠となっています。熊本県の江田船山古墳から出土した鉄刀にも同様の名が見られ、支配の広がりを裏付けています。